

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県白石市立南中学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 989-0112
宮城県白石市越河平字平合 23-1

E-mail info@shirominami-shiroishi-c.ed.jp

Website http://shirominami-j.shiroishi-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 14 名 女子 19 名 合計 33 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

当校は、「ゆたかさ、確かさ、たくましさ」を学校教育目標として、ESD 教育の実践を通して、持続可能な社会の担い手を育む教育活動を行っている。

具体的には、福祉、ふるさと、伝統文化を柱に、①全校福祉体験活動、②花いっぱい運動、③和紙づくり体験を行った。

① 全校福祉体験活動

すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、社会生活の中でともに支え合う態度を育むため、地域の社会福祉協議会等と連携しながら、1 年生ではキャップハンディ体験、2 年生では点字体験、3 年生では手話体験を行い、学年の実態に応じた福祉体験活動を行っている。また、今年度は盲目のプロドラマーとの音楽交流や講演会を実施し、生徒は福祉に対する考えを深める事ができた。

② 花いっぱい運動

東日本大震災以降、放射能の影響などから地域との交流が途絶えていた中地域との絆を深める事を目的に活動が始まった。具体的には、生徒が育てたマリーゴールドを地域の方にプレゼントする活動である。この活動を通して、生徒は地域の方との会話や優しさに触れることで、自分が生活している地域の良さを見直すことができている。

③ ふるさと教育

地域の伝統文化を尊重し、継承していこうとする態度を育てるため、地域のボランティアサークルと連携し、「白石和紙づくり体験」を実施した。具体的には、地域にこれまで継承されてきた「白石和紙」で生徒自ら卒業証書を作る活動である。現在、「白石和紙」の継承は一時期途絶えてしまい、地域のボランティアサークルが継承している。この「和紙づくり体験」を通して、地域の伝統文化を継承する事の大切さや態度が高まってきている。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

教科書 (社会, 理科, 技術家庭) ユネスコスクールHP

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育計画でESD教育として、①福祉教育、②人権教育、③環境・自然保全教育、④ふるさと教育、⑤国際理解教育、⑥エネルギー教育の視点で取り組み、持続可能な社会の担い手を育む教育活動として取り組んでいる。また、各視点において、ねらい・重点指導事項と照らし合わせながら反省を行い指導改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初にユネスコスクール加盟校としてESD教育に取り組む事を確認し、教育計画の年間計画に照らし合わせながら毎月、職員会議等で協議し全職員体制で取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動終了毎に見直しを行い、年2回の校内全体評価、外部評価などを実施し改善に努めている。ふるさと教育としての「和紙づくり体験」では、外部のボランティア団体の協力なしでは実施できない活動であり、そのための調整や準備に苦慮する事が大きな課題ではあるが、教育的効果は大きいため次年度も実施する方向である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページをはじめ、新聞やテレビなどマスコミ関係にも協力を依頼し活動内容等を発信してきた。地域の方に活動内容や目的を発信する事を続けてきた事により、以前より協力体制が得られ、充実した学習活動ができています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコ協会、社会福祉協議会、公民館、消防団、社会教育団体、ボランティアサークル、地域住民

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

交流していません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域との連携が欠かせない活動が多いことで，より連携が深まってきている。それによる教育的効果は大きいものがあり，生徒自身もこれらの活動に対する評価が高い。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ふるさと教育として花いっぱい運動，地域の伝統文化として和紙づくり体験，防災教育として地域の消防団との避難訓練，福祉教育としてプロの演奏家（盲目のドラマー）との交流活動，社会科・理科・技術家庭科の授業の中で環境問題やエネルギー教育を計画している。